

# R3年農事メモ(第4号)

令和3年6月18日  
白山石川営農推進協議会  
石川県農業共済組合  
松任市農業協同組合

## ～白山石川グレードアップ米づくり運動実施中!～

今回のポイント

- ☐ 中干し期間は1ヶ月、中干し後～出穂まで1ヶ月の飽水管理
- ☐ ケイ酸加里の追肥で稲体の健全化を!
- ☐ 6月除草+7月上旬までの仕上げ除草でカメムシ生息地を減らす!
- ☐ 生育ステージにあわせた適期防除の実施!

### 水稻の生育状況

6月8日生育調査では、茎数はひやくまん穀や五百万石で平年よりやや少なくなっているもののゆめみづほやコシヒカリでは平年並になっています。

中干し開始の目安はゆめみづほで1株17~18本、コシヒカリで1株14~15本、ひやくまん穀で1株13~15本です。

中干しの開始が遅れると遅発分げつが多くなり、乳白粒等の未熟粒が多発する恐れがあります。

#### 《6月8日 生育調査結果》

品種名	場所	田植日	草丈(cm)	茎数(本/株)	茎数(本/m <sup>2</sup> )
ゆめみづほ	横江	5月3日	24.2	15.8	298(平年比98%)
コシヒカリ	宮保	5月3日	32.7	19.2	349(平年比127%)
	剣崎	5月9日	34.8	11.8	189(平年比75%)
五百万石	御影堂	5月1日	27.9	9.9	199(平年比73%)
ひやくまん穀	上柏野	5月7日	29.5	10.9	201(前年比82%)

※健全な稲体(有効茎の比率の高い株)づくりを目指して今後の管理に臨みましょう

## 中干しと飽水管理の徹底で有効茎を確保!

「幼穂形成期までの中干し継続」と「中干し後の飽水管理」を徹底し夏バテしない有効茎を目指しましょう!

### ケイ酸加里の追肥

根の活力向上! 倒伏軽減! 登熟向上!

資材名	施用時期	施用量	備考	
けい酸加里プレミア	今が散布時期	40kg/10a	代かき前全層散布も可能(その場合60kg)	
BBグッドサポート			投げ込み肥料(動散での散布が困難な場合)	
(省力)エスアイ加里カリ投げくん		早生品種 6月15~25日	4kg/10a (200g×20個)	湛水状態で散布全面処理
ファイトアップ		コシヒカリ 6月20~30日 ひやくまん穀 6月20~30日	500g/10a (50g×10錠)	

※「土づくりゾーンサイクルプラン」を実施した圃場で、けい酸アップ・コシー発くんを施用している場合は省略できます。カリ投げくん、ファイトアップは湛水状態(5cm以上)で投げ入れ、4~5日間は水を切らさないようにする。



### 当面の栽培管理

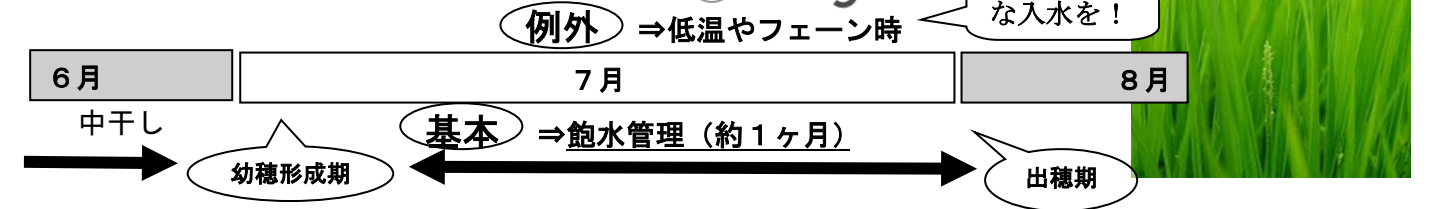
#### 飽水管理移行の目安

早生品種 6月20日頃 コシヒカリ 6月末頃  
ひやくまん穀 7月5日頃 晩植コシヒカリ 7月5日頃

#### 1 中干し終了後の水管理

- 幼穂形成期以降は稲の水分要求量が多くなるため、中干しから飽水管理に移行する。
- 出穂15~5日前に低温(17℃以下)が予想される場合、可能な限り深く湛水し、幼穂を保護する。
- 強風やフェーンが予想される場合、急激な蒸散による高温障害等の発生を防止するため、あらかじめ十分に入水しておく。

【参考】5月上旬植えコシヒカリの水管理

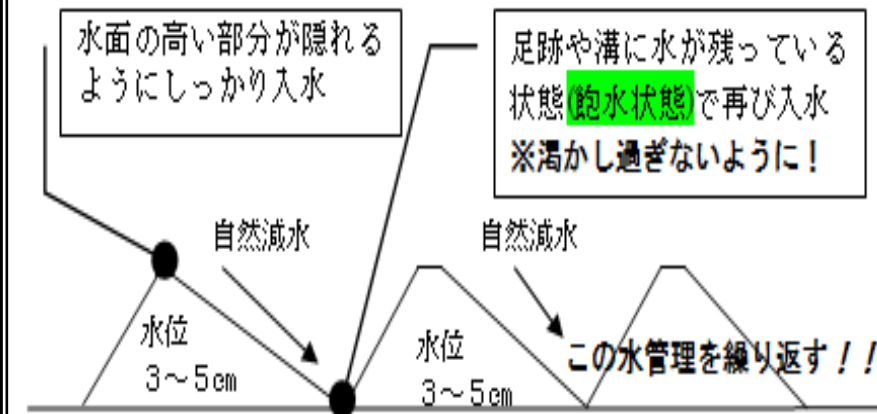


### 飽水管理のポイント

☆足跡に水がたまる程度の湿潤状態を目指しましょう!

【飽水管理の方法】

3cm程度入水後→自然落水→入水(出穂始め頃まで繰り返す)



【飽水管理の効果】

- ① 根が常に水分吸収可能な状態を保つ
- ② 地力窒素の発現を促し後期栄養を供給
- ③ 下葉の枯れ上がりや倒伏抑制
- ④ 未熟粒発生を防ぐ

### ここにも注意を 《生育に応じた今後の対応方針》

	生育が早い、旺盛な場合	生育が遅い、虚弱な場合
最高分げつ期(6月下旬頃)	強めに中干しをし、幼穂確認を遅れないようにする。	中干しは弱く(田面に適度に水分が残っている状態)土壌の乾湿の変化を少なくする。
幼穂形成期	穂肥施用等の出穂期を目安にする作業が遅れないようにする。	穂肥施用等の出穂期を目安にする作業が早めとならないようにする。

除草剤の使用方法は裏面です。

## 2 肥培管理

(1) 分施肥系の穂肥施用について (コシヒカリ、白山もちは次号に掲載予定)

施用基準

品種名	施用時期 (幼穂長)	BB有機入松任穂波		葉色
		時期の目安	施用量 (kg/10a)	
ゆめみづほ	出穂23日前 (2~3mm)	(6月24~26日)	30	4.0
五百万石	出穂18日前 (10mm前後)	(6月29日~7月1日)	30	4.3

- ・葉色が基準程度で葉身は直立・・・基準どおり施用。
- ・葉色が濃く葉の乱れが目立つ・・・基準より5日遅らせ、ゆめみづほ・五百万石は2割減肥。

(2) 一発体系の追加の穂肥施用について

高温登熟の場合に実施しますが、夏季気象を見極め次号でお知らせします

※基肥一発に「早生一発くんDX28」を施用した場合は、追加穂肥は不要です。

## 斑点米カメムシ多発注意!

6月~7月上旬にかけ、雑草地の除草を徹底しましょう!

### 主な畦畔用除草剤の特徴

農薬登録上、除草剤ごとに定められた使用する量や回数、時期についてラベルをよく確認し使用する。

剤名	抑草期間	難防除雑草への効果				本剤の 使用回数	散布後の 降雨(目安)	特徴および注意点
		スギナ	イボクサ	キシウ スズメ ヒエ	オオアレ チノギク			
ラウンドアップ マックスロード	50~60日	△ (25倍◎)	○	○	×	3回 以内	1時間	・根まで枯らすので効果が持続する ・25倍液希釈ならスギナの根絶が可能 ・オオアレチノギク対策として、バスタとの混用が可能 (低温時の処理で根まで枯らすことができる)
サンダーボルト 007	50~60日	△	○	○	○	2回 以内	3時間	・根まで枯らす成分と速効性の成分の混合除草剤 ・オオアレチノギクを含め広範囲の雑草に効果が高い ・スギナ対策には、2,4-Dアミン塩等との混用がおすすめ
バスタ液剤	40~50日	○	○	○	○	2回 以内	6時間	・畦畔に有効(畦が崩れない) ・広範囲の難防除雑草に効果が高い ・雑草全体に十分量散布する ・オオアレチノギクは草丈が小さいうち(30cm以内)に散布
ブリグロックSL	20~30日	○ (25倍◎)	○	○	○	5回 以内	15分	・散布後1日で効果が出て、低温でも効果が安定 ・薬剤がかかった部分のみ枯れるため作物に安心

★上記除草剤に「ダイロンゾル」を混用すると、雑草の発生をより長い期間抑草できます。

※違った作物が隣接する場合には、両方に登録のある除草剤を使用して下さい。

※除草剤散布の際は、使用基準を守り、風向きに注意するなど周辺作物に農薬が飛散しないように十分に注意すること。

## 3 病虫害防除

(1) 基幹防除

○早生品種の粒剤防除体系 (1回目: 出穂前+2回目: 出穂後)

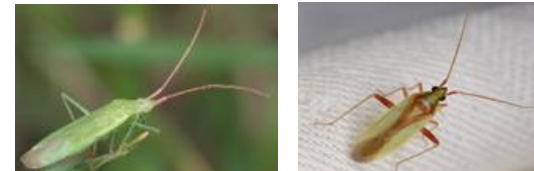
【1回目: 出穂前】

対象害虫	薬剤名	使用量 10a 当たり	使用適期	本剤の 使用回数	注意事項
いもち病、紋枯 病、カメムシ類	イモチエース キラップ粒剤	3 kg	出穂 10~7日前	1回	水深3~5cm程度で散布7日 間は湛水状態を保つ

【2回目: 出穂後】

対象害虫	薬剤名	使用量 10a 当たり	使用適期	本剤の 使用回数	注意事項
カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	スタークル 粒剤	3 kg	出穂 10~14日後	3回以内	水深3cm程度で散布4~5日 間は湛水状態を保つ

近年発生の多い飛翔性カメムシ



アカヒゲホソミドリ アカスジカスミカメ

畦畔除草は7月上旬までに終わらせ、その後の薬剤防除で  
斑点米対策を徹底しましょう!

※出穂期頃の畦畔除草は、逆にカメムシを水田に追いやります。

(2) 随時防除 常発地や昨年発生が見られた地域は田まわりを徹底しましょう

○いもち病 ※曇天・日照不足が続くと発生が見られる (過繁茂や風通しの悪い圃場は注意)

薬剤名	使用量 10a 当たり	使用適期	本剤の 使用回数	注意事項
ブラシン粉剤 DL	3~4 kg	発生時	2回以内	—

○紋枯病 ※前々年被害ワラが吹き寄せられる畦際から多く発生 (過繁茂となっている圃場は注意)

薬剤名	使用量 10a 当たり	使用適期	本剤の 使用回数	注意事項
モンセレン粉剤 DL	3~4 kg	発生始期 (7月上中旬)	4回以内	—

○稲こうじ病 ※前年発生したほ場は必ず散布。穂ばらみから出穂期の多雨、低温・日照不足で発生が多くなる。

薬剤名	使用量 10a 当たり	使用適期	本剤の 使用回数	注意事項
モンガリット粒剤	3~4 kg	出穂2~ 3週間前	2回以内	水深3cm以上で散布3~4日間は湛水を保つ。 使用時期は出穂45日前まで。
Zボルドー粉剤 DL	3~4 kg	出穂 10日前	—	穂に付着すると薬害を生じるので、必ず出穂 10日前までに散布する。

農薬散布後の止め水期間は7日間!

本田粒剤や水田用除草剤の散布後7日間は落水やかけ流しをしない!!

6月から8月にかけては、農薬散布の機会が多くなります。農薬危害防止に努めましょう!

①自身の健康管理に留意する、②子供や周辺住民に配慮する、③適正に使用・保管・廃棄する